

ディベートの進め方

まず初めに、各チームの論者、司会者、時計係、判定者、審判を決めます。

論者は、発言をする際には、次のようなことを守らなければなりません。

制限時間内で発言する。

積極的に発言する（チーム全員が一回は発言するように）。

ディベート全体の中で、「立論」「質問」「反論」など、自分の役割をしっかりと把握して発言する。

マナーを守って発言する。

- ・司会者の指示を受けてから発言する。
- ・相手を傷つけるような発言はしない。
- ・ほかの人の発言に割り込まない。
- ・失礼な態度はとらない。

司会者は、ディベートの開始、終了を告げ、制限時間を超えた発言を打ち切るなど進行を円滑に進める役割を担うほかに、開始時に論題の説明をし、各発言毎にルール違反がなかったかどうかの確認を行います。

時計係は、ルールどおりに進行するように時間を計り、各発言の際に残り時間を知らせたり、制限時間を超えた場合はそれを司会者に知らせたりします。

判定者は、各チームの発言がルール通りに行われていたか、論題に対する分析、論の展開、説得力などの面から中立の立場で公正に採点します。その際、判定者個人が論題についてどう考えているかということにはまったく関係なく判定しなければなりません。

審判は、判定者の代表として判定者の採点結果を集計し勝敗を公表するとともにディベートについての講評を行います。

日常の教室活動では、判定者、審判のような役割は、たいてい教師が担っています。しかし、ほかの人の話を聞いて理解し、評価するというのも大切な学習事項です。また、実際に、生徒の熱い議論の末の判定を教師一人が行うのは大変辛いものがあります。ですから、論題を二つ用意し、クラスを4グループに分けて、それぞれのディベート毎にクラスの半数の生徒に判定をさせるという方法をとるといいでしょう。その際、教師は時計係をすればいいでしょう。